クラス番号	635	担当教員名	藤井渉
テーマ	障害者福祉の課題を知り、働きかけを考える		
著書・論文 研究課題等	研究課題：「戦争と障害者」「障害者福祉の制度・政策分析」「福祉政策の歴史」 著書：藤井渉『障害とは何か　―戦力ならざる者の戦争と福祉』（単著、法律文化社、2017 年） 佐々木育子偏『Q＆A 実務家が知っておくべき社会保障　―障害のある人のために』（共著、日本加除出版、2017 年）		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：障害者福祉、福祉政策、歴史、支援、フィールドワーク

目　　的

障害者福祉現場の一つ一つの問題を、できるだけ丁寧に理解すること、そしてそれをマクロな視野から認識・把握できること、さらにその問題について自分なりにどうあるべきか、どうしていくべきかを、主体的に、そして実践的に考えられるようになることを目標に学習を進めていきます。

授業計画

基本的には次の 3 つを中心に演習を通して学びます。

①自分にとって、社会にとって意味のある研究のテーマや問題を自分で探し、決めます。自分でテーマを決めるのは意外と難しいことです。テーマを決めるためには、自分史にも向き合いながら、自ら考え、意見を交わし、深めていくことで自分なりの「問い」を探す作業を進めていくことになります。そのための方法、あるいはその整理を私やゼミ生らと共同で進めていきます。

②「問い」について、なぜそうなっているのか、客観的に分析をしながら考察を行います。そのために必要な社会資源が図書館です。図書館は先人たちが蓄えてきた知恵の宝庫です。みなさんが思いついた「問い」は、大なり小なり誰かが疑問に思い、考えているはずです。それを学び、身につけ、そして使いこなします。図書館の使い方にはいろんなコツがあり、また、図書館によって面白い個性があります。それをレクチャーしていきます。

③実際に調べ、自分なりの考えを示します。自分の考えをつくっていく場合に有効なのが、自分の感性を活かし、五感を通して理解していくこと、つまりフィールドワークをすることです。そして、その経験を踏まえながら統計データと付き合わせて俯瞰的に考えていくことです。

進 め 方

ゼミではできるだけ自由な論議を重視します。それを適宜私が整理を手助けしながら、場合によっては図式化をしてまとめていきます。自由な論議でぜひ大事にしてほしいのが、人の「いたみ」にできるだけ寄り添ってもらいたいことです。ここでいう「いたみ」とは、傷つけられたという「痛み」だけでなく、「悼み」という意味を含みます。つまり、過去に積み重ねられてきた生に対する悼みであり、ぜひそれに何かしらの敬意を払ってもらいたいということです。実は、そのために学習しなければならないのが歴史で、シリアスな問題が多々あるので少しご負担に感じる場面もあるかも知れませんが、その意義についてゼミ全般を通して知ってもらえたらと思っています。

担当教員からのメッセージ

いま福祉の現場で起こっている問題をできるだけマクロな視点から観察し、歴史に軸足を置きながらその改善に役立てる研究と教育を心がけています。歴史に軸足を置くということは、ものごとを時間軸で捉えることであり、過去を理解することで今何が起きているのか、今後どうなっていくのかが少しずつ見えてきます。そのようなある種の社会の「流れのようなもの」が見えてくると、自分だったらどう働きかけて、軌道修正を図っていくのか、その具体的な実践内容についてじっくりと腰を据えて考えることができるようになります。それを知ってもらえることで、少しでも社会に対して主体的に向き合えるための一助になればと期待しています。